

善意銀行（寄付の窓口）

区民の皆様から善意の寄付（金銭や物品）をお預かりし、地域の福祉施設やボランティア団体（子ども食堂、地域サロン等）などに配分し、地域の福祉活動を支援しています。ご寄付は、ぜひ本会までご連絡ください。

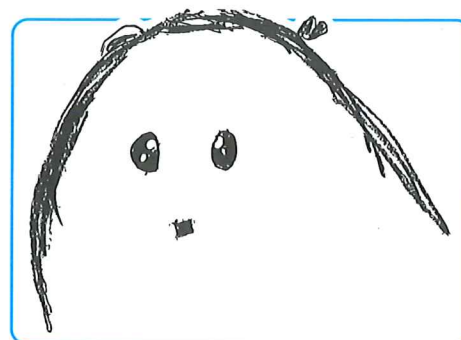
寄付者一覧（順不同、敬称略、2/1～7/30）ご寄付ありがとうございました。

戸塚西口共同ビル管理組合、六国建設株式会社、金子良光 踊場合唱 JOY、端山恵治、とつかルーテル保育園 保護者有志、山口知之、金原紀夫、横浜東戸塚ライオンズクラブ、戸塚ルーテル教会附属幼稚園、日本貿易印刷株式会社、ユニー株式会社アピタ戸塚店、匿名（5名）

～寄付者へのありがとうメッセージ～

大好きな ごはんを たくさん 食べて
もともと 元気に 大きくになります。
ありがとうございました。

（お米を受け取った保育施設より）



保育施設のお子さんからのイラスト

連載

福祉人材シリーズ 戸塚の輝くひと vol.15

一上倉田地区の特徴を教えてください

戸塚駅に近いこと明治学院への通学路であることから、朝7時台は駅へ8時台は駅から、人流が潮の満ち干のようです。日中は、アピタへの買物客や公園遊びの保育園児のかわいい声で賑やかに、夜は静かな住宅地となります。

一地区社協の活動について教えてください

長年、高齢者支援と幼児親子支援を、民生委員・児童委員と共に行ってきました。より多くの方々とつながる為に、上記の活動の他に「みんなの食堂」「みんなのおやつ食堂」を上げたところです。

コロナ禍の模索の結果、災害緊急用特別会計を支出し、独り暮らし高齢者に、昨年5月には不織布マスク、12月には携帯消毒スプレーを配布しました。入手の道筋をつけてくれた地域の方、仕分けをした社協チーム、配布協力の民生委員・児童委員と、みんなのつながりにより実現しました。

その他継続的な講座として、生前整理、幼稚園準備、小学生向け障がい理解講座などを企画しています。また、町内会自治会単位のサロン活動を助成し、小さなつながりを応援しています。

一これからの地区社協活動についてどのように考えていますか

第4期ハートプランの目標の一つ「地域活動の盛んなまち」を目指しています。今は、おしる粉の無料配布で留まっている「みんなのおやつ食堂」も、早く本来の地区内巡回事業として軌道に乗せたいです。

一ひとこと

時間ができたら、全国の巨樹を巡り、ご挨拶して来たいと思っています。



上倉田地区社会福祉協議会
会長 原野 裕子さん



社協とつか

2021年8月号(第79号)

発行/企画 社協・編集会議

社会福祉法人 横浜市戸塚区社会福祉協議会
住 所：〒244-0003 戸塚区戸塚町 167-25
戸塚区福祉保健活動拠点フレンズ戸塚
TEL：045-866-8434
FAX：045-862-5890
E-mail：info@totsukashakyo.com
http://totsukashakyo.com/

会長が交代しました

令和3年6月24日に行われた理事会にて、有賀美代会長の退任及び大副祥一新会長の就任が承認され、交代となったことを報告いたします。これからも皆様のご理解・ご支援のほど宜しくお願いいたします。

＊ 前会長退任あいさつ ＊

長引くコロナ禍の中で区社協会員の皆様、区社協を支える職員スタッフ、関係機関のご協力や連携のもと、社協運営・事業実施等にご努力ご尽力を頂き心より感謝申し上げます。

目標である豊かな地域社会の実現を目指し、地域福祉活動の拠点としての区社協の役割とその意義を改めて認識することになりました。会場閉鎖により活動の場を失った団体の解散。居場所として安心して顔を会わせる場づくりの必要性。多様な人々の交流と課題の共有を踏まえた取り組みを推進等々。私自身の活動継続への思いと重なります。

戸塚の包容力に支えられながらの長い間の会長職ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



前会長 有賀 美代
(就任月日：平成18年2月28日～
令和3年6月24日)

＊ 新会長就任あいさつ ＊

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の流行から、私たちの日常が一変し、人と人との距離を取ること、不要不急の外出を控える等の指導があり、多くの社会福祉活動が延期・休止になり、活動が低調になったこの時期に会長を拝命致しました。

私の福祉の原点は12年間の民生委員・児童委員活動です。福祉の知識を得、人脈が出来、人を思う心を養い、大変だけれども、楽しい、嬉しい、面白い事を知りました。

戸塚区社協という大きな組織を永きにわたり会長を勤められました、有賀前会長の功績は大きく、この功績を汚すことの無いように活動してまいります。

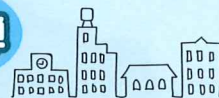
まだまだ明るさは見えませんが「明けない夜はない」という言葉を信じて前に進んで行きましょう。皆様のご指導、ご鞭撻宜しくお願い致します。



会長 大副 祥一
(就任月日：令和3年6月24日～)



住民主体のまちづくり 第7弾



コロナ禍での地域活動 その2

新型コロナウイルスが今なお猛威をふるう中、私たちは多くの工夫や努力を積み重ね、新しい地域活動を編み出したり、継続するために活動を変えたりして、状況に応じたより良い地域活動を模索しています。

今号は、コロナ禍でも前向きに活動に取り組む3つの団体を、社協とつか編集会議のメンバーが取材しましたので、ご紹介します。

名瀬地区ハートプラン ～ラジオ体操の取り組み～

名瀬地区の公園でのラジオ体操の取り組みは、コロナ禍において2020年の11月より始まっていて、現在は名瀬地区内の公園3か所で開催しています。公園での活動ということで、距離感を保ち密にならないように、参加者の方々はラジオ体操に参加している様子でした。

参加者数としては40名弱の方が参加しており、ラジオ体操に参加された後はそれぞれにお話をされている様子が伺え、時には笑い声も聞こえました。

青空の下で体を動かすことで、心も体もリフレッシュし朝から活発に行動することに繋がり、また筋力低下を防ぐため介護予防にもなります。

また継続して参加することでポイントをためると、地域の手芸サークルの方々に協力いただき作成した参加賞(アクリルたわしなど)も貰えるといった仕組みをつくっているのが、参加者の方々も単発ではなく習慣化して来られている様子でした。実施されている方にお話を伺ったところ、「コロナ禍で家に閉じこもってしまいがちの方々が、ラジオ体操といった場を作ることによってコミュニティづくりのきっかけになればいい」とお話をされていました。

今回取材をしてみて、地域の方々が主体となって場づくりを行っている様子が伺えた機会となりました。



名瀬第一公園でのラジオ体操の様子



ラジオ体操35回参加達成記念の参加賞



取材者より

自然に恵まれた大きな公園で朝8時に始まるラジオ体操は、参加されている方々が皆さん笑顔で溢れていました。コロナ禍の今だからこそ、人と人とのつながりが大切だと感じました。長く続くと良いですね。

中途障害者地域活動センターとつかわかば ～障害者施設の現状～

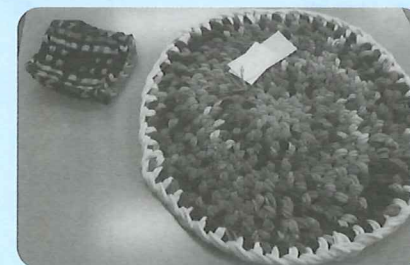
とつかわかばは、脳血管疾患等によって障害をもった方々が、軽作業・学習・地域交流などを通じて、地域社会で自立して生活することを目指して活動する施設です。

「現在、1日の利用人数を10名程度にする、マスク着用、なるべくおしゃべりしないように講義形式に机を並べて作業する等のコロナ対策を行いながら活動しています。バス等の公共交通機関を利用して通うことに対しての不安もあります。とつかわかばでリハビリのために軽作業や体操をすることも利用者の皆さんにとって大切なことです。引き続き休まず活動していきたいと考えています」とのお話でした。

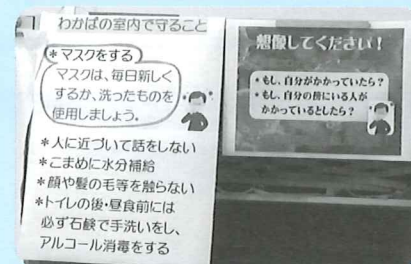
また、コロナも基礎疾患のある方は重症化しやすいと言われていますが、脳血管疾患の予防についても同じで、若い方も健康診断を受けて早めにケアすることが大切とのお話が心に残りました。



施設内での活動の様子



活動で作成した作品



感染予防の掲示



素敵な小物も作成



取材者より

訪問を終えて、男性が多いなと感じました。しかし、作業はとても丁寧で、几帳面。頑張っている様子が伺えました。生活することは大変だとは思いますが、前向きに進んで欲しいです。



取材者より

ここは違う経験を持った人達とふれ合える大切な場。「病気になった前後で人生は大きく変わるので、特に若い方は自己管理をして、自分の健康を保つことがとても大切です」という言葉に納得しました。

芹ヶ丘自治会 ～SNSの活用～

芹ヶ丘自治会では、SNSの活用に取り組んでいます。コロナ禍で集まらない中、どのように地域活動を行っていかかを検討した結果、「まずはできることから始めてみよう!」ということで、回覧の代わりにツイッターを始めたり、会議の代わりにLINEを活用する取り組みを始めました。

ツイッターは月1回の回覧板に比べるとタイムリーな情報を発信できます。また、LINEの活用をすることで日常的に情報交換ができ、会議の回数や時間を短くできるよう工夫しています。

高齢者の中にはSNSの使い方が分からないという方が多くいますが、使い方を教えながらサポートしています。

今後は、ツイッターを広めるためにQRコードを作成し配布を行うなど、広報に力を入れていく予定です。時代に合わせて様々なツールを活用しながら、地域活動を行っていくことの大切さを感じました。

芹ヶ丘自治会の窓口
ツイッター
「@serigasso」です



取材者より

SNS・ツイッター・LINEを使い、役員同士の連絡や活動を発信しており、今後はQRコードを配り、ツイッターの利用者を増やすとのこと。今後の自治会活動の在り方を見据え、考えていました。凄い!進んでいました!の一言です。

令和2年度 戸塚区社会福祉協議会事業・決算報告

新型コロナウイルスの影響により経済的に困窮の方に向けて生活再建に必要な資金の貸付を行い、相談件数が大幅に増加しました。その対応のために受託金収入が増額となり、感染症対策等に充当しました。

新型コロナウイルスの影響により会議・事業が中止になることも多く、福祉保健活動拠点フレンズ戸塚の運営も縮小せざるを得ませんでした。

収入の内訳		(単位: 円)	支出の内訳		(単位: 円)
受託金	41,785,908		助成金	19,843,000	
会費	5,249,920		人件費	21,850,791	
補助金	9,720,160		事業費	18,930,268	
共同募金配分金	10,651,948		事務費	3,471,993	
事業収入	497,340		その他の支出	1,865,452	
寄附金	1,680,208		合計	65,961,504	
その他の収入	1,493,680				
合計	71,079,164				

※前年度繰越金・繰入金収入を除く

誰もが安心して
心豊かに暮らすことのできる
地域社会の実現を目指して...

今秋

地域に暮らし、学び、
働く地域の皆さんの
取組や活動をまとめた計画

第4期とつかハートプラン
(戸塚区地域福祉保健計画)
が完成します!!



とつかハートプラン
マスコットこころん



こころんの部屋はこちら!